



のび太という生き方



先日、家の本箱を見ていると「のび太という生き方」という本を目にしました。気になって読んでみるとこれがなかなか面白い。この本はある大学で教育学を研究したり学生に教えたりしていた名誉教授が様々な研究をする中で『ドラえもん学』として徹底的に調べたものの一つです。そして多くの登場人物がいる中でのび太についていろいろな角度から研究してまとめたものがこの「**のび太という生き方**」です。今日の全校集会で少し内容を話しましたので以下に紹介します。

2月22日、全校集会より

今日はドラえもんについてお話をします。ドラえもんは世界的な漫画です。いろいろな国の言葉でも発刊されています。校長先生が子どものころからもちろんやっていました。誰もが一度は思うように先生も「うちにもドラえもんがいてくれたらなあ」と何度も本気で思ったものでした。どこでもドア、タケコプター、暗記パンなどなど、本当に夢のある世界でした。最近、家の本箱に「のび太という生き方」という本を見つけました。きっと奥さんが買ったものと思いますが手にして読んでみるとこれがなかなか面白い。今日はその内容を少し紹介したいと思います。

のび太といえばぐずぐずでのろまで勉強もできない、運動もできない、ジャイアンやスネ夫たちからもからかわれ、いじめられてばかりの少年です。両親からも叱られ、担任の先生からも頻繁に怒られます。だから何かあればドラえ蒙のヒミツ道具に頼ってしまうという弱いイメージがあります。しかし、この本の作者はのび太の人生は”勝ち組”だといいます。ということか、のび太はいじめられたり、からかわれても何とかやり返そうと決意します。スネ夫がみんながうらやましく思うようなおもちゃやゲームを自慢すると自分も何とかしてそれ以上のものを手に入れたと考え行動します。こんなふうに単に落ち込んだり、やる気をなくしたり、逃げ出したりするだけでなく一度は自分で何とかしようとして立ち上がるのです。そのためにドラえ蒙の道具を借りる時もあります。そして調子に乗りすぎて失敗してしまうという展開がよくあるパターンです。長編の映画の時には動物や物、時には自然現象さえ大切にし、自分の危険を顧みずにその大切なものを守ろうとする強く、優しい心の持ち主です。恥ずかしながら感動して涙することもありました。そんなのび太の勝ち組といわれる典型的な話があります。それはしずかちゃんとの結婚です。有名な結婚式前夜の話では結婚に不安になったしずかちゃんがお父さんに相談した時、お父さんがこんな話をします。「**のび太君を選んだきみの判断は正しかったと思うよ。あの青年は人の幸せを願い、人の不幸を悲しむことのできる人だ。それが一番人間にとって大事なことなんだからね。**」と、ドラえもん史上最も心に響くアドバイスを受け、結婚式に臨みます。こんなのび太の生き方がみんなのこれからの人生に何らかの参考になればと思います。